

特集	育て！天文学者の卵たち — 研究機関が行う体験事業		
	特集記事によせて ～巻頭言にかえて	小野 智子	6
	銀河学校2003 ～この5年間で得られたモノ～	西浦 慎悟	7
	理想のセミナーを求めて		
	— 君が天文学者になる4日間 4年間の実践のまとめ —		
	室井 恭子, 志岐 成友, 五島 正光		
	縣 秀彦, 渡部 潤一		14
	日本天文学会のジュニアセッションの試み	吉川 真	
	— 中高生を天文学会の場に —	ジュニアセッション世話人会	21
	銀河学校卒業生から	福士比奈子, 米田 瑞生, 藤原 英明	28
天球儀 〈読物〉	口径8m級望遠鏡の戦国時代を駆け抜ける	谷口 義明, 安食 優, 藤田 忍	
		長尾 透, 塩谷 泰広, 村山 卓	34
シリーズ	《海外研究室事情 (37)》		
	Department of Physics and Mathematical Physics, University of Adelaide		
	アデレード大学 物理・数物科学部	Philip Edwards	44
雑報	質量放出脈動星とその周囲の物質を探る	竹内 峯	46
	2000年博士・修士論文タイトル一覧	天文天体物理 若手の会事務局	48
月報たより			57

表紙説明

すばる望遠鏡が誇る広視野カメラSuprime-Camを用いて赤方偏移5.7（宇宙年齢を150億年とすると140億光年彼方に相当）の銀河を発見した物語です。

赤方偏移が5.7ですと、水素原子の放射するライマン α 線は約8160Åまで偏移してきます。波長8160Å帯の光だけを通す狭帯域フィルターを使ってイメージを撮ると、赤方偏移5.7の銀河が見つかります。しかし、その輝線が本当にライマン α 線かどうかを確認する必要があります。そのため、今度は発見した天体のスペクトル観測をしなければなりません。私たちはすばる望遠鏡のスペクトル観測装置であるFOCASとアメリカのケック天文台のスペクトル観測装置であるESIを使って観測しました。その結果、見事に赤方偏移5.7の銀河であることがわかりました。この記事は2002年の2月から3月に行ったこれらの観測の成果報告です。お楽しみください。

表紙コンセプト

今年の表紙には、天文を一般の方にも親しんでもらえるような、優しいイメージのイラストを描かせていただきました。天文にとっても詳しい方も、またそうでない方も、星空を見上げて星が綺麗だなと思う気持ちは同じだと思ひ、皆がいとおいそうに空を見上げている絵にしました。綺麗な夜空に、心が和みますように。

(安部容子)

(天球儀参照)